令和　2年度（31年度決算分）高松市事務事業評価表　【事中・事後評価】

総合計画体系		評価担当	
まちづくりの目標	市民と行政がともに力を発揮できるまち	局名	市民政策局
政策	参画・協働によるコミュニティの再生	課（室）名	地域振興課
施策	離島の振興	電話番号	087-839-2278
基本事業	交流・定住人口の拡大	事業実施主体	市
事務事業	大島振興方策推進事業	事業期間	平成 28年度～令和　5年度

【事業全体概要】

事業の概要	大島におけるこれまでのハンセン病療養所としての歴史等を後世に伝えていくとともに、瀬戸内国際芸術祭を契機として育まれた、芸術関係者を始めとする島外の人々との交流を更に活性化するなど、大島の振興を図るため、「大島振興方策」に掲げる具体的施策・事業を計画的に実施する。
2年度概要	①大島と瀬戸内の島々の交流事業業務委託 ・情報発信事業 ・交流促進事業 ②国との協議・要望に係る旅費

重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト		事務事業の類型	②ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	市民
意図（どのような状態にしたいか）	大島への来島者数を増加させる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H29	H30	H31	R 2	中期目標 R 2
① 大島交流イベント開催回数（地域振興課実施分）	回	1	1	1	1	1
②						

【事業の成果】

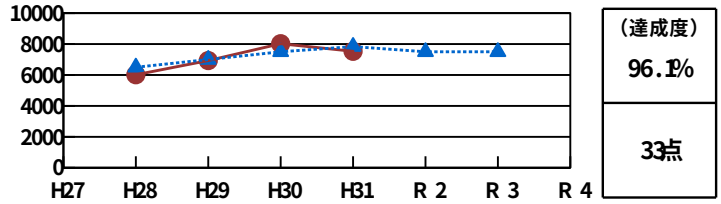
成果指標①

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H29	H30	H31	R 2	中期目標 R 2
大島交流イベント参加者数（年間総数）	人	目標値	7,000	7,500	7,836	7,500	7,500
		実績値	6,932	8,022	7,531		

成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）

大島振興方策等に基づき、大島振興につながる人権学習などを含む交流による活動等具体的事業に取組むことで来島者を増加させるとともに、大島の歴史の伝承と交流・定住の促進を図る。

（目標達成度）

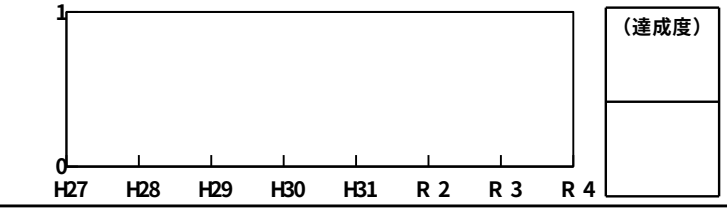


成果指標②

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H29	H30	H31	R 2	中期目標 R 2
		目標値					
		実績値					

成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）

（目標達成度）



【コストの推移】

指標名	単位	平成 29年度（決算）	平成 30年度（決算）	平成 31年度（決算）	令和　2年度（予算）
トータルコスト	[千円]	5,345	6,342	6,294	6,347
(事業費)	[千円]	1,551	2,561	2,500	2,553
(職員人件費)	[千円]	3,794	3,781	3,794	3,794

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

情報発信事業として、大島に関する広報誌である「大島レター」を令和元年１１月、令和２年３月に発行した。交流促進事業では、瀬戸内海の島々の住民との歌をテーマとした交流ワークショップを実施し、大島と周辺離島間の交流が促進された。
また、大島青松園の協力を得て、ハンセン病の啓発パネル展を庵治支所に常設展示した。
今後は、更なる交流の促進及び発行物やパネル展での有効な周知・広報に取り組むことが求められる。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

大島振興方策に基づき、具体的な施策・事業を効果的に行うことで検討委員会を設置し、「歴史の伝承」と「交流・定住の促進」を図り、有人島として存続していく。